

2017年6月9日

株 主 各 位

東京都港区芝大門一丁目1番30号
株式会社日本ケアサプライ
代表取締役社長 金子博臣

第19回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申しあげます。

さて、当社第19回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができませんので、後記の株主総会参考書類をご検討いただき、お手数ながら同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2017年6月26日(月曜日)の当社営業時間終了時(午後6時)までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 日 時 | 2017年6月27日(火曜日) 午前10時
(受付開始時刻は午前9時30分を予定しております。) |
| 2. 場 所 | 東京都千代田区内幸町一丁目5番1号
千代田区立 内幸町ホール
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。) |
| 3. 目的事項
報告事項 | 1. 第19期(2016年4月1日から2017年3月31日まで) 事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第19期(2016年4月1日から2017年3月31日まで) 計算書類報告の件 |
| 決 議 事 項 | |
| 第1号議案 | 剰余金の処分の件 |
| 第2号議案 | 取締役5名選任の件 |
| 第3号議案 | 監査役2名選任の件 |

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

◎株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます(アドレス <https://www.caresupply.co.jp/>)。

(提供書面)

## 事業報告

( 2016年4月1日から  
2017年3月31日まで )

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当事業年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、緩やかな回復基調が続いているものの、英国のEU離脱問題や米国の政策動向による影響などにより、先行きは不透明な状況が続きました。

介護業界においては、2025年には団塊の世代のすべてが75歳以上となるなど、わが国の人口の高齢化は今後更に進展することが見込まれているなか、現在、「地域包括ケアシステムの深化・推進」と「介護保険制度の持続可能性の確保」を柱とした介護保険法等の改正法案が国会で審議されております。

このような環境のもと、当社グループは、「福祉用具サプライ事業の持続的な成長」と「在宅高齢者生活支援サービス事業への取り組みを強化」に注力し、事業領域の拡大に努めてまいりました。

福祉用具サプライ事業においては、福祉用具レンタルの需要に応じたレンタル資産の購入や品揃えの拡充を行うとともに、オリジナル車いす「ケアフィットプラス 介助用」の本格展開、受発注業務を効率化するシステム「e-KaigoNet」のリニューアル、福祉用具貸与事業者向けオリジナルカタログ制作支援サービスの拡充などにより、レンタル拡大に努めてまいりました。また、福祉用具販売では、BtoB E Cサイト「グリーンケアオンラインショップ」加入事業者の利用促進により、販売拡大に努めてまいりました。一方、拠点展開では、業容拡大に伴う倉庫スペースの拡大のため、「北九州営業所(福岡県北九州市)」、「市川営業所(千葉県市川市)」を同一市内に移転したほか、「佐世保ステーション(長崎県佐世保市)」を移転し、「大村営業所(長崎県大村市)」といたしました。また、効率的な営業活動のため、「川口ステーション(埼玉県川口市)」を「東京営業所(東京都足立区)」に統合し、当連結会計年度末における営業拠点数は88拠点となりました。

在宅介護サービス事業においては、通所介護事業者向け配食サービスの取扱商品を拡充する一方、営業体制を強化するとともに、配食サービスの1周年キャンペーンの開催など、販売拡大に努めてまいりました。また、首都圏を中心に展開している訪問看護サービスでは、外部講師による地域の専門職向けのセミナーを開催し、サービスの一層の向上に取り組んでまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、福祉用具レンタル・販売の増収により、売上高は15,020百万円（前連結会計年度比9.6%増）となりました。利益面では、売上原価においてレンタル資産の減価償却費が増加いたしました。増収による売上総利益の増加や効率的な経費の使用に努めたことにより、営業利益は1,624百万円（同30.3%増）、経常利益は1,632百万円（同29.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,089百万円（同40.3%増）となりました。

企業集団の事業区分別売上状況は次のとおりであります。

| 事業区分       | 第18期<br>(2016年3月期)<br>(前連結会計年度) |            | 第19期<br>(2017年3月期)<br>(当連結会計年度) |            | 前連結会計年度比    |            |
|------------|---------------------------------|------------|---------------------------------|------------|-------------|------------|
|            | 金額<br>(百万円)                     | 構成比<br>(%) | 金額<br>(百万円)                     | 構成比<br>(%) | 金額<br>(百万円) | 増減率<br>(%) |
| 福祉用具サプライ事業 | 13,099                          | 95.6       | 14,482                          | 96.4       | 1,383       | 10.6       |
| 在宅介護サービス事業 | 607                             | 4.4        | 537                             | 3.6        | △69         | △11.5      |
| 合計         | 13,707                          | 100.0      | 15,020                          | 100.0      | 1,313       | 9.6        |

- ② 設備投資の状況  
当連結会計年度中において実施いたしました設備投資の総額は、3,855百万円であり、その主なものは当社のレンタル資産の取得3,533百万円です。
- ③ 資金調達の状況  
該当事項はありません。
- ④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況  
該当事項はありません。
- ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況  
該当事項はありません。
- ⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況  
該当事項はありません。
- ⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況  
該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                      | 第16期<br>(2014年3月期) | 第17期<br>(2015年3月期) | 第18期<br>(2016年3月期) | 第19期<br>(当連結会計年度)<br>(2017年3月期) |
|--------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|
| 売上高 (千円)                 | 10,883,904         | 12,131,210         | 13,707,088         | 15,020,668                      |
| 経常利益 (千円)                | 1,247,825          | 975,834            | 1,259,974          | 1,632,066                       |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 (千円) | 676,728            | 505,216            | 776,936            | 1,089,666                       |
| 1株当たり当期純利益 (円)           | 43.55              | 32.51              | 50.00              | 70.13                           |
| 総資産 (千円)                 | 12,613,972         | 13,057,593         | 15,231,119         | 16,254,552                      |
| 純資産 (千円)                 | 9,842,667          | 9,987,983          | 10,463,570         | 11,274,279                      |
| 1株当たり純資産額 (円)            | 630.79             | 640.29             | 672.53             | 724.81                          |

### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第16期<br>(2014年3月期) | 第17期<br>(2015年3月期) | 第18期<br>(2016年3月期) | 第19期<br>(当事業年度)<br>(2017年3月期) |
|----------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|
| 売上高 (千円)       | 10,334,211         | 11,576,399         | 13,223,342         | 14,592,424                    |
| 経常利益 (千円)      | 1,241,195          | 994,994            | 1,262,177          | 1,631,894                     |
| 当期純利益 (千円)     | 672,776            | 524,169            | 781,138            | 1,091,151                     |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 43.30              | 33.73              | 50.27              | 70.22                         |
| 総資産 (千円)       | 12,524,424         | 12,988,082         | 15,193,406         | 16,220,824                    |
| 純資産 (千円)       | 9,783,469          | 9,949,097          | 10,466,089         | 11,270,694                    |
| 1株当たり純資産額 (円)  | 629.65             | 640.31             | 673.58             | 725.36                        |

### (3) 重要な親会社及び子会社等の状況

#### ① 親会社との関係

当社は、三菱商事(株)を親会社とし、同社は当社の株式を11,620,000株(議決権比率74.79%)保有しております。また、当社は、同社から役員  
の派遣を受けております。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会 社 名         | 主要な営業所<br>所 在 地   | 資本金<br>(百万円) | 当社の議<br>決権比率<br>(%) | 主 要 な 事 業 内 容                   |
|---------------|-------------------|--------------|---------------------|---------------------------------|
| (株)ライフタイムメディ  | 東京都世田谷区<br>東京都国立市 | 25           | 85.00               | 通所介護、訪問看護・リハビリ<br>テーション、居宅介護支援等 |
| (株)グリーンケアブリッジ | 福島県郡山市            | 22           | 60.00               | 小規模多機能型居宅介護、訪問<br>看護・リハビリテーション  |

#### ③ 重要な関連会社の状況

| 会 社 名       | 主要な営業所<br>所 在 地 | 資本金<br>(百万円) | 当社の議<br>決権比率<br>(%) | 主 要 な 事 業 内 容 |
|-------------|-----------------|--------------|---------------------|---------------|
| (株)ブリッジサポート | 京都府京都市          | 15           | 49.00               | 福祉用具貸与等       |

#### (4) 対処すべき課題

当社グループを取り巻く環境は、「団塊の世代」が後期高齢者となる2025年に向けて高齢者人口が増加するとともに、社会保障給付費の増加が見込まれるなか、介護保険制度の見直しに向けた議論が継続して行われております。このような事業環境のなか、当社グループは、福祉用具レンタルのサービス水準の向上や効率化に努めるとともに、在宅高齢者やそのご家族の生活支援ニーズへの対応力を高め、更なる事業領域の拡大に努めてまいります。

また、実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制の整備・強化を推進するとともに人材育成・確保に注力し、企業価値の持続的な向上が可能な経営体制の構築に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

#### (5) 主要な事業内容（2017年3月31日現在）

##### ① 福祉用具サプライ事業

福祉用具貸与の指定を受けている事業者向けの福祉用具の貸与及び販売等を行っております。

##### ② 在宅介護サービス事業

通所介護、訪問看護・リハビリテーションのサービス及び通所介護事業者向け配食サービス等を行っております。

(6) 主要拠点等 (2017年3月31日現在)

① 当社の主要拠点等

| 名 称 等           | 所 在 地      |
|-----------------|------------|
| 本 社             | 東京都港区      |
| サ ー ビ ス セ ン タ ー | 神奈川県横浜市瀬谷区 |
| 大阪メンテナンスセンター    | 大阪府大東市     |
| 営 業 拠 点         | 全国88拠点     |

② 子会社

子会社については「1. 企業集団の現況 (3) 重要な親会社及び子会社等の状況」に記載のとおりであります。

(7) 使用人の状況 (2017年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

| 事 業 区 分    | 使 用 人 数     | 前連結会計年度末比増減 |
|------------|-------------|-------------|
| 福祉用具サプライ事業 | 653 (213) 名 | 60名増 (15名増) |
| 在宅介護サービス事業 | 106 (1) 名   | 8名増 ( - )   |
| 合 計        | 759 (214) 名 | 68名増 (15名増) |

(注) 使用人数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

| 使 用 人 数     | 前事業年度末比増減   | 平 均 年 齢 | 平 均 勤 続 年 数 |
|-------------|-------------|---------|-------------|
| 661 (213) 名 | 63名増 (15名増) | 38.8歳   | 6.3年        |

(注) 使用人数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況 (2017年3月31日現在)

| 借 入 先         | 借 入 額       |
|---------------|-------------|
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 1,000,000千円 |
| 株式会社三井住友銀行    | 500,000千円   |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式の状況 (2017年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 64,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 16,342,400株
- (3) 株主数 3,950名
- (4) 大株主 (上位10名)

| 株 主 名                                                          | 持 株 数 ( 株 ) | 持 株 比 率 ( % ) |
|----------------------------------------------------------------|-------------|---------------|
| 三菱商事(株)                                                        | 11,620,000  | 74.78         |
| (株)三菱総合研究所                                                     | 544,000     | 3.50          |
| 明治安田生命保険相互会社<br>(常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))                        | 240,000     | 1.54          |
| N C S 従業員持株会                                                   | 144,800     | 0.93          |
| 高橋 慧                                                           | 75,500      | 0.48          |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)<br>(信託口)                                   | 72,800      | 0.46          |
| 渡辺 勝利                                                          | 67,000      | 0.43          |
| J.P. MORGAN SECURITIES LLC-<br>CLEARING<br>(常任代理人 シティバンク銀行(株)) | 51,400      | 0.33          |
| (株)S B I 証券                                                    | 46,400      | 0.29          |
| 津賀 暢                                                           | 40,200      | 0.25          |

- (注) 1. 当社は自己株式804,434株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### (5) その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

### 3. 会社の新株予約権等の状況

- (1) **当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況**（2017年3月31日現在）  
該当事項はありません。
- (2) **当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況**  
該当事項はありません。
- (3) **その他新株予約権等に関する重要な事項**  
該当事項はありません。

## 4. 会社役員の状態

### (1) 取締役及び監査役の状態 (2017年3月31日現在)

| 地 位     | 氏 名       | 担当及び重要な兼職の状態                         |
|---------|-----------|--------------------------------------|
| 代表取締役社長 | 金 子 博 臣   |                                      |
| 取締役     | 赤 須 修 一 郎 | 常務執行役員経営統括兼経営企画室長兼資産総括部長             |
| 取締役     | 岡 田 真     | 執行役員管理本部副本部長兼人事部長                    |
| 取締役     | 宮 下 修     | エム・シー・ヘルスケア(株) 代表取締役社長               |
| 取締役     | 亀 井 信 一   | (株)三菱総合研究所 研究理事政策・経済研究センター長          |
| 取締役     | 山 崎 和     | 三菱商事(株) 執行役員生活産業グループ生活流通本部長          |
| 常勤監査役   | 半 田 常 巳   |                                      |
| 監査役     | 伊 藤 利 之   |                                      |
| 監査役     | 上 石 奈 緒   | 巻之内・上石法律事務所 パートナー弁護士                 |
| 監査役     | 高 橋 浩 司   | 三菱商事(株) 生活産業グループ管理部リテイール・生活流通チームリーダー |

- (注) 1. 取締役亀井信一氏は、社外取締役であります。
2. 監査役伊藤利之、上石奈緒の両氏は、社外監査役であります。
3. 当社は、取締役亀井信一、監査役伊藤利之、上石奈緒の3氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 監査役高橋浩司氏は、経理・審査部門における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当事業年度中の取締役及び監査役の異動は次のとおりであります。
- ①2016年6月23日開催の第18回定時株主総会終結の時をもって、取締役山田保裕氏は、辞任により退任いたしました。
- ②2016年6月23日開催の第18回定時株主総会において、山崎和氏は、取締役に選任され、高橋浩司氏は、監査役に選任され、それぞれ就任いたしました。
6. 取締役赤須修一郎氏は、2017年4月1日付で常務執行役員経営統括兼経営企画室長兼資産総括部長から常務執行役員営業統括兼営業本部長兼営業部長へ担当変更いたしました。
7. 当社は、執行役員制度を導入しており、2017年4月1日現在の取締役兼務者を除く執行役員及びその担当は、以下のとおりであります。

| 地 位    | 氏 名       | 担 当            |
|--------|-----------|----------------|
| 常務執行役員 | 梶 木 清 一 郎 | 管理本部長兼経営企画室長   |
| 執行役員   | 岩 田 修     | サービス本部長兼資産総括部長 |

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と各取締役(業務執行取締役等である者を除く)及び各監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

## (3) 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分                | 支給人員        | 報酬等の額                  |
|--------------------|-------------|------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 7名<br>(3名)  | 69,235千円<br>(3,000千円)  |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4名<br>(2名)  | 19,100千円<br>(7,200千円)  |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 11名<br>(5名) | 88,335千円<br>(10,200千円) |

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、2004年4月27日開催の第6回定時株主総会において、年額200,000千円以内と決議いただいております。
2. 監査役の報酬限度額は、2004年4月27日開催の第6回定時株主総会において、年額80,000千円以内と決議いただいております。
3. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
4. 当事業年度において、社外役員が当社親会社又は当該親会社の子会社(当社を除く)から受けた役員としての報酬等の総額は8,500千円であります。
5. 業務執行取締役の報酬については、取締役会の諮問に基づき、社外取締役を委員長とする報酬諮問委員会において、会社の業績や経営内容、経済情勢等を総合的に考慮し、公正かつ透明性の高い評価を行った上で、同委員会からの答申に基づき、取締役会において報酬額を決定することとしております。

#### (4) 社外役員に関する事項

##### ① 他の法人等の重要な兼職の状況

| 区 分 | 氏 名  | 兼職する法人等     | 兼職の内容            |
|-----|------|-------------|------------------|
| 取締役 | 亀井信一 | (株)三菱総合研究所  | 研究理事政策・経済研究センター長 |
| 監査役 | 上石奈緒 | 巻之内・上石法律事務所 | パートナー弁護士         |

- (注) 1. (株)三菱総合研究所と当社との間には、特別の利害関係はありません。  
2. 当社は、巻之内・上石法律事務所との間に顧問契約を締結しております。

##### ② 当事業年度における主な活動状況

| 区 分 | 氏 名  | 主な活動状況                                                                     |
|-----|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 | 亀井信一 | 当事業年度に開催された取締役会12回全てに出席し、豊富な経験と高い見識に基づき中立かつ客観的な観点から適宜発言を行っております。           |
| 監査役 | 伊藤利之 | 当事業年度に開催された取締役会12回及び監査役会12回全てに出席し、豊富な知識と高い見識に基づき中立かつ客観的な観点から適宜発言を行っております。  |
|     | 上石奈緒 | 当事業年度に開催された取締役会12回及び監査役会12回全てに出席し、高い見識に基づき中立かつ弁護士としての専門的な観点から適宜発言を行っております。 |

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                       | 支 払 額    |
|---------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額                | 29,500千円 |
| 当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 29,500千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、適正かつ効率的な監査を実現するため監査計画の内容、会計監査の遂行状況及び必要な監査日数や人員数等に基づく報酬見積の算定根拠について、会計監査人と十分な協議を重ねて監査報酬が決定されたことの検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

### (3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

当社が業務の適正を確保するための体制として取締役会で決議している事項は次のとおりであります。

- ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - イ. 企業倫理、社会規範を最優先する旨を明記した、役職員行動規範を定め周知徹底する。
  - ロ. 会社相談窓口（社外相談窓口を含む）を設け、コンプライアンスに関する相談に迅速に対応する体制とする。
  - ハ. 代表取締役社長を委員長とし、常勤役員・執行役員のうち委員長が指名した委員で構成されるコンプライアンス委員会を設置し、定期的開催する。
  - ニ. 適切な財務諸表作成のために、経理規程を定めるとともに、財務報告の信頼性確保のための体制につき、その整備・運用状況を定期的に評価し改善を図る。
  - ホ. 内部監査部門は、内部監査規程に基づき、各部門の監査を定期的に行う。
  - ヘ. 社会秩序や安全に脅威を与える反社会勢力及び団体とは、一切の関係を遮断し、断固たる姿勢で臨む。
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会決議等会社の重要な意思決定については、必ず文書化するとともに、法定保存文書と同様に、法令並びに社内規程に基づき、所定の期間保存し、適切に管理を行う。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - イ. 当社を取り巻く各種リスクについては、担当する部門を定め、規則の制定、研修等を行う。
  - ロ. 内部監査部門は、各種リスクについての対応が適切に行われているかを定期的に監査する。
  - ハ. 危機管理委員会を設け、危機管理体制の整備、危機管理に係る事項の発生について調査・対応処置の決定を行うとともに、危機管理に係る事項の発生事実及び講じた措置について、定期的に取り締役に報告する。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - イ. 取締役会は、原則として月1回開催し、経営上の重要事項について迅速かつ的確な意思決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行う。また、取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、職務権限規程等社内規程に基づいた権限委譲を各役員に行い、効率的な業務執行を行う。

- ロ. 取締役会で決定した毎年の経営方針・目標に沿って、各部門は当年度の目標及び利益計画を策定し、達成状況を常時フォローアップし、翌年度に達成状況に応じた業績評価を実施する。
  - ハ. 経営会議を定期的に開催し、経営上或いは業務執行上基本的または重要な事項について幅広く協議・検討する。
- ⑤ 当社並びに当社の子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 当社の定める社内規程において、子会社の重要事項については、当社の事前承認・事前協議を義務付ける。  
また、当社の事業投資管理部門においては、子会社における不測の事態発生に備える体制を構築するとともに、役員のパ遣を通じて子会社の業務執行状況を随時確認する。
  - ロ. 当社の定める社内規程において、当社及び子会社の相互に発生する経営上の重要な案件を合理的に解決し経営の効率化を追求することを定める。
  - ハ. 当社は、子会社の役職員の行動規範を定め、子会社の全ての役員員に周知徹底する。  
また、子会社の役職員が、コンプライアンス案件を当社のコンプライアンス相談窓口（会社相談窓口）に、直接通報が行える体制を構築する。
- ⑥ 当社並びにその親会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 当社は、親会社及びその子会社等とコンプライアンスに関する重要事実について相互に情報確認を行い、業務の適正確保に努める。
  - ロ. 当社と、親会社及びその子会社等との間における取引は、法令に照らし、適切に行うものとする。
- ⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 監査役が必要と判断し求めた場合には、監査役の職務を補助する使用人を速やかに設置する。
- ⑧ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 補助すべき使用人を設置する場合には、使用人の人数や人事異動・人事考課等監査役会の同意を要するものとし、取締役からの独立性が確保されるよう、その人事に関しては、取締役と監査役が協議を行う。
- また、当該使用人は、監査役の指揮命令に従わなければならない。

- ⑨ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- イ. 当社及び子会社の役職員は、当社監査役から業務執行に関する事項について報告を求められたときは速やかに適切な報告を行う。
  - ロ. 当社及び子会社の役職員は、職務の執行に関する法令違反、定款違反、不正行為の事実または会社に損害を及ぼす恐れのある事実を知ったとき、その他危機管理に係る事由が発生した場合や内部通報があった場合には、その内容及び対応状況を、監査役に遅滞なく報告する。
  - ハ. 監査役への報告を行った当社及び子会社の役職員に対し、当該報告を行ったことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び子会社の役職員に周知徹底する。
- 二. 取締役は、監査役が必要と認める重要な会議に出席することができる体制を整備するとともに、稟議書等業務執行に係る重要な文書を監査役に回覧し、必要に応じて、その内容を説明する。
- ⑩ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- イ. 役職員は、監査役との相互の意思疎通を図るため、必要に応じ監査上の重要課題等について意見交換を行う。
  - ロ. 内部監査部門は、監査役との連携を図り、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図る。
  - ハ. 取締役は、会計監査人に監査役と定期的に意見及び情報の交換を行うことを求める。
- 二. 監査役が、独自に弁護士や公認会計士を起用し、監査業務に関する助言を受けることができるようにする。
- ホ. 監査役が、その職務の執行について当社に対し費用の前払いなどの請求をしたときは、担当部門において審議の上、当該請求に関わる費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
- 監査役の執行について生ずる費用を支弁するため、毎年一定額の予算を設ける。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

### ① 法令順守体制

当社役職員が順守すべきコンプライアンスマニュアルを整備し、役職員に周知徹底するとともに、全役職員を対象としたコンプライアンス研修を実施しております。

コンプライアンス相談窓口（会社相談窓口）を常設し、連絡先の社内周知を図るとともに、コンプライアンス違反またはそのおそれがある行為の通報者が、不利な扱いを受けないことを確保するための社内規程を定めております。

コンプライアンス違反の状況については、内部監査部門による業務監査及び各所管部門よりチーフ・コンプライアンス・オフィサーを通じ、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス委員会に対し適切に報告がなされ、再発防止策の検討を含め適切に対応いたしました。

② 職務執行の適正及び効率性の確保に対する取り組みの状況

企業倫理、社会規範を最優先する旨を明記した役職員行動規範を定め、取締役が法令及び定款に則って行動するよう徹底するとともに、取締役・監査役を対象とした企業経営に関する研修を実施しております。

取締役会を通じて社外取締役及び社外監査役から発言が積極的に行われる機会を設けることで、意思決定及び監督の実効性は確保されております。なお、取締役会議事録や重要事項に関する稟議書等の取締役の職務執行に関わる情報の保存については、社内規程に基づき適切に保管・管理されています。

取締役の職務執行の効率性の確保についての取り組みとしては、組織規程及び業務分掌・職務権限に関する社内規程を定め、これにより責任の明確化並びに効率的な業務の遂行を図っており、また、品質管理の強化及び業務効率の向上等を目的とした組織変更を検討し、2017年4月1日付で実施いたしました。

③ グループ会社管理体制

子会社においては、経営上の重要事項が子会社の取締役会付議・報告事項として定められており、子会社に当社から取締役・監査役を派遣することで、子会社の経営状況を把握、管理できる体制となっております。また、毎月開催される当社取締役会において、主管部門より子会社各社の業績及び営業状況を報告しております。

子会社の役職員の行動規範を定め、子会社の全ての役職員に周知するとともに、子会社の役職員が、コンプライアンスに関する問題を当社のコンプライアンス相談窓口（会社相談窓口）に、直接通報が行えることとしています。

内部監査部門は、子会社における重要業務の遂行・管理体制について、整備・運用状況評価を行いました。

④ 監査役

社外監査役を含む監査役会は、取締役会への出席及び常勤監査役による経営会議その他の重要会議への出席を通じて内部統制の整備・運用状況を確認しております。また、会計監査人、内部監査部門と必要に応じて情報交換を実施することで、当社の内部統制システム全般をモニタリングするとともに、より効率的な運用について助言を行っております。

本事業報告の中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

# 連結貸借対照表

(2017年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目             | 金 額               |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>   |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>6,140,484</b>  | <b>流動負債</b>     | <b>2,633,595</b>  |
| 現金及び預金          | 606,705           | 買掛金             | 332,026           |
| 売掛金             | 356,047           | レンタル資産購入未払金     | 584,779           |
| レンタル未収入金        | 1,628,494         | 未払法人税等          | 337,755           |
| 有価証券            | 2,699,973         | 賞与引当金           | 166,352           |
| 商品              | 7,471             | レンタル資産保守引当金     | 752,600           |
| 貯蔵品             | 21,738            | その他             | 460,083           |
| 繰延税金資産          | 335,959           | <b>固定負債</b>     | <b>2,346,677</b>  |
| 短期貸付金           | 255,713           | 長期借入金           | 1,500,000         |
| その他             | 238,092           | 退職給付に係る負債       | 718,754           |
| 貸倒引当金           | △9,711            | その他             | 127,923           |
| <b>固定資産</b>     | <b>10,114,068</b> | <b>負債合計</b>     | <b>4,980,273</b>  |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>9,073,314</b>  | <b>(純資産の部)</b>  |                   |
| レンタル資産          | 7,965,631         | <b>株主資本</b>     | <b>11,170,480</b> |
| 建物及び構築物         | 649,431           | 資本金             | 2,897,650         |
| 機械装置及び運搬具       | 13,493            | 資本剰余金           | 1,641,650         |
| 土地              | 58,130            | 利益剰余金           | 7,046,031         |
| 建設仮勘定           | 3,937             | 自己株式            | △414,851          |
| その他             | 382,689           | その他の包括利益累計額     | 91,531            |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>253,742</b>    | その他有価証券評価差額金    | 101,955           |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>787,011</b>    | 退職給付に係る調整累計額    | △10,423           |
| 投資有価証券          | 319,596           | <b>非支配株主持分</b>  | <b>12,266</b>     |
| 長期貸付金           | 519               | <b>純資産合計</b>    | <b>11,274,279</b> |
| 繰延税金資産          | 221,991           |                 |                   |
| その他             | 250,270           |                 |                   |
| 貸倒引当金           | △5,366            |                 |                   |
| <b>資産合計</b>     | <b>16,254,552</b> | <b>負債・純資産合計</b> | <b>16,254,552</b> |

# 連結損益計算書

( 2016年4月1日から )  
( 2017年3月31日まで )

(単位：千円)

| 科 目                          | 金       | 額          |
|------------------------------|---------|------------|
| 売 上 高                        |         | 15,020,668 |
| 売 上 原 価                      |         | 9,301,011  |
| 売 上 総 利 益                    |         | 5,719,657  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費          |         | 4,094,960  |
| 営 業 利 益                      |         | 1,624,697  |
| 営 業 外 収 益                    |         |            |
| 受 取 利 息                      | 407     |            |
| 持 分 法 に よ る 投 資 利 益          | 3,219   |            |
| 業 務 受 託 料                    | 2,400   |            |
| そ の 他                        | 5,875   | 11,902     |
| 営 業 外 費 用                    |         |            |
| 支 払 利 息                      | 4,349   |            |
| そ の 他                        | 183     | 4,532      |
| 経 常 利 益                      |         | 1,632,066  |
| 特 別 損 失                      |         |            |
| 固 定 資 産 売 却 損                | 774     |            |
| 固 定 資 産 除 却 損                | 2,221   | 2,995      |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益        |         | 1,629,070  |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税      | 582,059 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額                | △41,050 | 541,008    |
| 当 期 純 利 益                    |         | 1,088,062  |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 損 失 |         | 1,604      |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 |         | 1,089,666  |

## 連結株主資本等変動計算書

( 2016年4月1日から )  
( 2017年3月31日まで )

(単位：千円)

|                               | 株 主 資 本   |           |           |          |             |
|-------------------------------|-----------|-----------|-----------|----------|-------------|
|                               | 資 本 金     | 資本剰余金     | 利益剰余金     | 自己株式     | 株主資本<br>合 計 |
| 2016年4月1日 残高                  | 2,897,650 | 1,641,650 | 6,344,814 | △414,799 | 10,469,314  |
| 連結会計年度中の変動額                   |           |           |           |          |             |
| 剰余金の配当                        |           |           | △388,450  |          | △388,450    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益           |           |           | 1,089,666 |          | 1,089,666   |
| 自己株式の取得                       |           |           |           | △51      | △51         |
| 株主資本以外の項目の<br>連結会計年度中の変動額(純額) |           |           |           |          |             |
| 連結会計年度中の変動額合計                 | -         | -         | 701,216   | △51      | 701,165     |
| 2017年3月31日 残高                 | 2,897,650 | 1,641,650 | 7,046,031 | △414,851 | 11,170,480  |

|                               | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |                  |                   | 非支配株主<br>持 分 | 純資産合計      |
|-------------------------------|-----------------------|------------------|-------------------|--------------|------------|
|                               | その他有価証<br>券評価差額金      | 退職給付に係<br>る調整累計額 | その他の包括利<br>益累計額合計 |              |            |
| 2016年4月1日 残高                  | -                     | △19,615          | △19,615           | 13,871       | 10,463,570 |
| 連結会計年度中の変動額                   |                       |                  |                   |              |            |
| 剰余金の配当                        |                       |                  |                   |              | △388,450   |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益           |                       |                  |                   |              | 1,089,666  |
| 自己株式の取得                       |                       |                  |                   |              | △51        |
| 株主資本以外の項目の<br>連結会計年度中の変動額(純額) | 101,955               | 9,192            | 111,147           | △1,604       | 109,542    |
| 連結会計年度中の変動額合計                 | 101,955               | 9,192            | 111,147           | △1,604       | 810,708    |
| 2017年3月31日 残高                 | 101,955               | △10,423          | 91,531            | 12,266       | 11,274,279 |

## 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

### (1) 連結の範囲に関する事項

#### ① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 2社
- ・主要な連結子会社の名称 (株)ライフタイムメディ  
(株)グリーンケアブリッジ

#### ② 非連結子会社の状況

非連結子会社はありません。

### (2) 持分法の適用に関する事項

#### ① 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

- ・持分法適用の非連結子会社  
及び関連会社の数 1社
- ・主要な関連会社の名称 (株)ブリッジサポート

#### ② 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の状況

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社はありません。

### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

### (4) 会計方針に関する事項

#### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### イ. 有価証券

- ・満期保有目的の債券 償却原価法を採用しております。
- ・その他有価証券  
時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ロ. たな卸資産

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

#### ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### イ. 有形固定資産

（リース資産を除く）

- ・レンタル資産 当社は定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は3年～6年であります。
- ・その他の有形固定資産 当社及び連結子会社は定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
建物及び構築物 15年  
機械装置及び運搬具 7年

- ロ. 無形固定資産  
(リース資産を除く)
- ハ. リース資産
- ③ 重要な引当金の計上基準
- イ. 貸倒引当金
- ロ. 賞与引当金
- ハ. レンタル資産保守引当金
- ④ その他連結計算書類作成のための重要な事項
- イ. 退職給付に係る負債の計上基準
- ロ. 消費税等の会計処理
- 当社及び連結子会社は定額法を採用しております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づいております。  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- 当社は、債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- 当社及び連結子会社は、従業員の賞与支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。
- 当社は、期末現在貸出中のレンタル資産について、貸出に伴い発生する保守費用（洗浄・消毒・修繕）に備えるため、発生見込額を計上しております。
- 退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務の額を計上しております。  
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。  
未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。
- 税抜方式によっております。  
なお、資産に係る控除対象外消費税等は、当連結会計年度の費用として処理しております。

## 2. 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

18,586,276千円

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数<br>(株) | 当連結会計年度増加株式数<br>(株) | 当連結会計年度減少株式数<br>(株) | 当連結会計年度末株式数<br>(株) |
|-------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 普通株式  | 16,342,400          | —                   | —                   | 16,342,400         |

#### (2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数<br>(株) | 当連結会計年度増加株式数<br>(株) | 当連結会計年度減少株式数<br>(株) | 当連結会計年度末株式数<br>(株) |
|-------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 普通株式  | 804,400             | 34                  | —                   | 804,434            |

(注) 自己株式の株式数の増加34株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

#### (3) 剰余金の配当に関する事項

##### ① 配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり配当額<br>(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2016年6月23日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 388,450        | 25              | 2016年3月31日 | 2016年6月24日 |

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2017年6月27日開催の定時株主総会において次のとおり付議する予定であります。

| 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 配当の原資 | 1株当たり配当額<br>(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|-------|----------------|-------|-----------------|------------|------------|
| 普通株式  | 543,828        | 利益剰余金 | 35              | 2017年3月31日 | 2017年6月28日 |

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用する方針であります。

#### ② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金及びレンタル未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格等の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されております。

短期貸付金は、貸付先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及びレンタル資産購入未払金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

未払法人税等は、そのほとんどが2ヶ月以内に納付期限が到来するものであります。

借入金の返済日は、決算日後3年以内であります。

また、これらの営業債務、未払法人税等及び借入金は、流動性リスクに晒されております。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

##### イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権、短期貸付金について、社内管理規程に従い、担当部署が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社に準じた管理を行っております。

満期保有目的の債券は、社内管理規程に従い、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

##### ロ. 市場リスク（市場価格等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券については、社内管理規程に従い、担当部署が定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

##### ハ. 流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、営業債務、未払法人税等及び借入金について、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新する等の方法により管理しております。また、連結子会社は、当社と同様の管理を行っております。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

2017年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注)2. 参照）。

|                 | 連結貸借対照表<br>計上額（千円） | 時価<br>（千円） | 差額<br>（千円） |
|-----------------|--------------------|------------|------------|
| (1)現金及び預金       | 606,705            | 606,705    | －          |
| (2)売掛金          | 356,047            | 356,047    | －          |
| (3)レンタル未収入金     | 1,628,494          | 1,628,494  | －          |
| (4)有価証券及び投資有価証券 | 2,868,453          | 2,868,453  | －          |
| (5)短期貸付金        | 255,713            | 255,713    | －          |
| 資産計             | 5,715,414          | 5,715,414  | －          |
| (1)買掛金          | 332,026            | 332,026    | －          |
| (2)レンタル資産購入未払金  | 584,779            | 584,779    | －          |
| (3)未払法人税等       | 337,755            | 337,755    | －          |
| (4)長期借入金        | 1,500,000          | 1,501,704  | 1,704      |
| 負債計             | 2,754,560          | 2,756,264  | 1,704      |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

### 資 産

(1)現金及び預金、(2)売掛金、(3)レンタル未収入金、(5)短期貸付金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。

### 負 債

(1)買掛金、(2)レンタル資産購入未払金、(3)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分    | 連結貸借対照表計上額 (千円) |
|-------|-----------------|
| 非上場株式 | 151,116         |

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

|                           | 1年以内 (千円) |
|---------------------------|-----------|
| 現金及び預金                    | 606,705   |
| 売掛金                       | 356,047   |
| レンタル未収入金                  | 1,628,494 |
| 有価証券及び投資有価証券<br>満期保有目的の債券 |           |
| 社債                        | 2,700,000 |
| 短期貸付金                     | 255,713   |
| 合計                        | 5,546,960 |

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

|       | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>2年以内<br>(千円) | 2年超<br>3年以内<br>(千円) | 3年超<br>4年以内<br>(千円) | 4年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 長期借入金 | —            | —                   | 1,500,000           | —                   | —                   | —           |
| 合計    | —            | —                   | 1,500,000           | —                   | —                   | —           |

6. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 724円81銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 70円13銭  |

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

9. その他の注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 貸借対照表

(2017年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目             | 金 額               |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>   |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>6,049,493</b>  | <b>流動負債</b>     | <b>2,621,062</b>  |
| 現金及び預金          | 583,623           | 買掛金             | 332,026           |
| 売掛金             | 286,645           | レンタル資産購入未払金     | 584,779           |
| レンタル未収入金        | 1,629,245         | 未払金             | 268,849           |
| 有価証券            | 2,699,973         | 未払法人税等          | 337,000           |
| 商物品             | 7,379             | 預り金             | 37,553            |
| 貯蔵品             | 21,738            | 賞与引当金           | 161,072           |
| 前払費用            | 149,584           | レンタル資産保守引当金     | 752,600           |
| 繰延税金資産          | 335,590           | その他             | 147,182           |
| 短期貸付金           | 255,713           | <b>固定負債</b>     | <b>2,329,067</b>  |
| 未収入金            | 17,197            | 長期借入金           | 1,500,000         |
| その他             | 72,512            | 退職給付引当金         | 703,730           |
| 貸倒引当金           | △9,711            | 長期預り保証金         | 121,979           |
| <b>固定資産</b>     | <b>10,171,331</b> | その他             | 3,356             |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>9,046,875</b>  | <b>負債合計</b>     | <b>4,950,129</b>  |
| レンタル資産          | 7,965,631         | <b>(純資産の部)</b>  |                   |
| 建築物             | 621,874           | <b>株主資本</b>     | <b>11,168,739</b> |
| 構築物             | 1,249             | <b>資本金</b>      | <b>2,897,650</b>  |
| 機械及び装置          | 8,835             | <b>資本剰余金</b>    | <b>1,641,650</b>  |
| 車両運搬具           | 4,596             | 資本準備金           | 1,641,650         |
| 工具、器具及び備品       | 382,620           | <b>利益剰余金</b>    | <b>7,044,290</b>  |
| 土地              | 58,130            | 利益準備金           | 16,370            |
| 建設仮勘定           | 3,937             | その他利益剰余金        | 7,027,920         |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>253,484</b>    | 繰越利益剰余金         | 7,027,920         |
| 商標権             | 546               | <b>自己株式</b>     | <b>△414,851</b>   |
| ソフトウェア          | 252,922           | <b>評価・換算差額等</b> | <b>101,955</b>    |
| その他             | 15                | その他有価証券評価差額金    | 101,955           |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>870,971</b>    | <b>純資産合計</b>    | <b>11,270,694</b> |
| 投資有価証券          | 300,412           | <b>負債・純資産合計</b> | <b>16,220,824</b> |
| 関係会社株           | 47,553            |                 |                   |
| 従業員に対する長期貸付金    | 519               |                 |                   |
| 関係会社長期貸付金       | 82,000            |                 |                   |
| 長期前払費用          | 9,814             |                 |                   |
| 繰延税金資産          | 217,390           |                 |                   |
| 差入保証金           | 210,919           |                 |                   |
| その他             | 7,726             |                 |                   |
| 貸倒引当金           | △5,366            |                 |                   |
| <b>資産合計</b>     | <b>16,220,824</b> |                 |                   |

# 損 益 計 算 書

( 2016年 4 月 1 日から )  
( 2017年 3 月 31 日まで )

(単位：千円)

| 科 目                   | 金       | 額          |
|-----------------------|---------|------------|
| 売 上 高                 |         | 14,592,424 |
| 売 上 原 価               |         | 8,962,957  |
| 売 上 総 利 益             |         | 5,629,467  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |         | 4,004,068  |
| 営 業 利 益               |         | 1,625,398  |
| 営 業 外 収 益             |         |            |
| 受 取 利 息               | 1,383   |            |
| 有 価 証 券 利 息           | 309     |            |
| 受 取 配 当 金             | 2,961   |            |
| 業 務 受 託 料             | 4,062   |            |
| そ の 他                 | 2,357   | 11,074     |
| 営 業 外 費 用             |         |            |
| 支 払 利 息               | 4,349   |            |
| そ の 他                 | 228     | 4,578      |
| 経 常 利 益               |         | 1,631,894  |
| 特 別 損 失               |         |            |
| 固 定 資 産 売 却 損         | 774     |            |
| 固 定 資 産 除 却 損         | 2,221   | 2,995      |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |         | 1,628,898  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 581,304 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額         | △43,557 | 537,747    |
| 当 期 純 利 益             |         | 1,091,151  |

## 株主資本等変動計算書

( 2016年4月1日から )  
( 2017年3月31日まで )

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |           |           |              |          |            |  |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|--------------|----------|------------|--|
|                         | 資 本 金     | 資本剰余金     | 利 益 剰 余 金 |              | 自己株式     | 株主資本計<br>合 |  |
|                         |           | 資本準備金     | 利益準備金     | その他<br>利益剰余金 |          |            |  |
|                         |           |           |           | 繰越利益<br>剰余金  |          |            |  |
| 2016年4月1日残高             | 2,897,650 | 1,641,650 | 16,370    | 6,325,218    | △414,799 | 10,466,089 |  |
| 事業年度中の変動額               |           |           |           |              |          |            |  |
| 剰余金の配当                  |           |           |           | △388,450     |          | △388,450   |  |
| 当期純利益                   |           |           |           | 1,091,151    |          | 1,091,151  |  |
| 自己株式の取得                 |           |           |           |              | △51      | △51        |  |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額(純額) |           |           |           |              |          |            |  |
| 事業年度中の変動額合計             | -         | -         | -         | 702,701      | △51      | 702,650    |  |
| 2017年3月31日残高            | 2,897,650 | 1,641,650 | 16,370    | 7,027,920    | △414,851 | 11,168,739 |  |

|                         | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計      |
|-------------------------|------------------|----------------|------------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |            |
| 2016年4月1日残高             | -                | -              | 10,466,089 |
| 事業年度中の変動額               |                  |                |            |
| 剰余金の配当                  |                  |                | △388,450   |
| 当期純利益                   |                  |                | 1,091,151  |
| 自己株式の取得                 |                  |                | △51        |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額(純額) | 101,955          | 101,955        | 101,955    |
| 事業年度中の変動額合計             | 101,955          | 101,955        | 804,605    |
| 2017年3月31日残高            | 101,955          | 101,955        | 11,270,694 |

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### (1) 資産の評価基準及び評価方法

#### ① 有価証券

- ・満期保有目的の債券
- ・子会社株式及び関連会社株式
- ・その他有価証券  
時価のあるもの

償却原価法を採用しております。  
移動平均法による原価法を採用しております。

時価のないもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

移動平均法による原価法を採用しております。

#### ② たな卸資産

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

### (2) 固定資産の減価償却の方法

#### ① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

レンタル資産 3年～6年

建物 15年

機械及び装置 7年

工具、器具及び備品 3年～6年

#### ② 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づいております。

#### ③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (3) 引当金の計上基準

#### ① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### ② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

#### ③ レンタル資産保守引当金

期末現在貸出中のレンタル資産について、貸出に伴い発生する保守費用（洗浄・消毒・修繕）に備えるため、発生見込額を計上しております。

- ④ 退職給付引当金 従業員への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

**(4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項**

- 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。  
 なお、資産に係る控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。

**2. 追加情報**

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)  
 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

**3. 貸借対照表に関する注記**

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 18,544,397千円  
 (2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務  
 ① 短期金銭債権 13,239千円  
 ② 長期金銭債権 82,000千円  
 ③ 短期金銭債務 31千円

**4. 損益計算書に関する注記**

- 関係会社との取引高  
 ① 売上高 61,151千円  
 ② その他の営業取引高 114,048千円  
 ③ 営業取引以外の取引高 1,286千円

**5. 株主資本等変動計算書に関する注記**

**自己株式の種類及び株式数に関する事項**

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数<br>(株) | 当事業年度増加株式数<br>(株) | 当事業年度減少株式数<br>(株) | 当事業年度末株式数<br>(株) |
|-------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 普通株式  | 804,400           | 34                | —                 | 804,434          |

(注) 自己株式の株式数の増加34株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

## 6. 税効果会計に関する注記

### 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳

|              |           |
|--------------|-----------|
| 繰延税金資産（流動）   |           |
| 貸倒引当金        | 2,997千円   |
| 未払事業税        | 21,765千円  |
| 賞与引当金        | 49,706千円  |
| レンタル資産保守引当金  | 232,252千円 |
| その他          | 28,868千円  |
| 繰延税金資産（流動）小計 | 335,590千円 |
| 評価性引当額       | △0千円      |
| 繰延税金資産（流動）計  | 335,590千円 |
| 繰延税金資産（固定）   |           |
| 退職給付引当金      | 215,482千円 |
| その他          | 62,744千円  |
| 繰延税金資産（固定）小計 | 278,226千円 |
| 評価性引当額       | △15,838千円 |
| 繰延税金資産（固定）計  | 262,387千円 |
| 繰延税金負債（固定）   |           |
| その他有価証券評価差額金 | △44,996千円 |
| 繰延税金負債（固定）計  | △44,996千円 |
| 繰延税金資産の純額    | 552,981千円 |

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

### 兄弟会社等

| 種類      | 会社等の名称             | 議決権等の所有(被所有)割合 (%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円)  | 科目    | 期末残高 (千円) |
|---------|--------------------|--------------------|-----------|-------|------------|-------|-----------|
| 親会社の子会社 | 三菱商事フィナンシャルサービス(株) | —                  | 資金貸借取引    | 資金の貸付 | △1,963,575 | 短期貸付金 | 255,713   |
|         |                    |                    |           | 受取利息  | 74         | 未収収益  | 1         |

#### 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 資金の貸付については、余剰資金の運用のための貸付であります。貸付利率は市場金利を基準に決定しております。
2. 資金の貸付については、短期間での反復取引のため、取引金額は当事業年度における純増減額を記載しております。
3. 取引金額には消費税等が含まれておりません。

**8. 1株当たり情報に関する注記**

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 725円36銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 70円22銭  |

**9. 重要な後発事象に関する注記**

該当事項はありません。

**10. その他の注記**

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2017年5月16日

株式会社日本ケアサプライ

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

|                    |       |      |   |
|--------------------|-------|------|---|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 水野裕之 | Ⓔ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 福士直和 | Ⓔ |

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社日本ケアサプライの2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日本ケアサプライ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2017年5月16日

株式会社日本ケアサプライ

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

|                    |       |      |   |
|--------------------|-------|------|---|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 水野裕之 | Ⓔ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 福士直和 | Ⓔ |

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社日本ケアサプライの2016年4月1日から2017年3月31日までの第19期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査役会の監査報告

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、2016年4月1日から2017年3月31日までの第19期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、当期の監査の方針、監査計画、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を求め、その業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知に報告を受け、必要に応じて説明を求めました。これらに基づき、当該事業年度に係る計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記並びにその附属明細書、並びに連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 「業務の適正を確保するための体制」に関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該体制に関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

#### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2017年5月24日

|         |     |       |     |     |         |
|---------|-----|-------|-----|-----|---------|
| 株 式 会 社 | 日 本 | ケ ア   | サ ブ | ラ イ | 監 査 役 会 |
|         | 常 勤 | 監 査 役 | 半 藤 | 常 巳 | Ⓔ       |
|         | 社 外 | 監 査 役 | 伊 藤 | 利 之 | Ⓔ       |
|         | 社 外 | 監 査 役 | 上 石 | 奈 緒 | Ⓔ       |
|         | 監   | 査 役   | 高 橋 | 浩 司 | Ⓔ       |

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

第19期の期末配当につきましては、当事業年度の業績並びに今後の事業展開等を勘案いたしまして以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金35円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は543,828,810円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
2017年6月28日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 取締役5名選任の件

取締役全員（6名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役5名の選任をお願いしたいと存じます。

取締役候補者の決定に当たりましては、当社の社是・経営方針に基づき、当社の企業価値向上に貢献できる能力と資質を持っていること、法令及び企業倫理・社会規範の遵守に徹する見識を有すること等を総合的に判断し、取締役が候補者を推薦し、事前かつ個別に独立社外取締役の意見を確認した上で、取締役会において決定しております。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                     | 氏名<br>(生年月日)                   | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 所有する<br>当社の株式数 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1                                                                                                                                         | (再任)<br>金子博臣<br>(1958年12月21日生) | 1981年4月 三菱商事(株) 入社<br>1993年12月 BRIDGESTONE SALES<br>(THAILAND) CO.,LTD. SALES<br>DIRECTOR<br>2001年4月 当社 営業部長<br>2003年4月 当社 取締役営業本部長兼営業部長<br>2004年8月 当社 取締役<br>三菱商事(株) 新機能事業グループヒューマンケア事業本部ライフケア事業ユニットマネージャー<br>2005年6月 (株)グッドライフデザイン 代表取締役副社長<br>2009年4月 三菱商事(株) 生活産業グループヒューマンケア・メディア本部ヘルスケアユニットマネージャー<br>2010年5月 当社 代表取締役社長<br>2011年6月 当社 代表取締役社長兼事業開発本部長<br>2013年4月 当社 代表取締役社長(現任)<br>2015年6月 一般社団法人日本福祉用具供給協会理事(現任) | 0株             |
| (取締役候補者とした理由)<br>金子博臣氏は、2010年から当社の代表取締役社長として、経営全般に関するリーダーシップを発揮し、当社の業績拡大に努めております。また当社及び当社グループの経営に関して、豊富な経験と実績を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。 |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |

| 候補者番号                                                                                                                            | ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)                          | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 所有する<br>当社の株式数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2                                                                                                                                | (再任)<br>あかす しゅいちろう<br>赤須 修一郎<br>(1960年9月27日生) | 1983年4月 三菱商事(株) 入社<br>1991年12月 Konica Business Mashines Italia S.p.A. Director<br>2007年4月 三菱商事(株) イノベーション事業グループヒューマンケア事業本部戦略企画室長<br>2010年4月 同社 生活産業グループヘルスケア・流通サービス本部戦略企画室長<br>2010年6月 (株)ティーガイア 社外監査役<br>2011年4月 三菱商事(株) 生活産業グループリテイル・ヘルスケア本部戦略企画室長<br>2013年6月 当社 経営企画室長<br>当社 取締役経営企画室長<br>2014年4月 当社 取締役経営統括兼経営企画室長兼資産総括部長<br>2015年6月 当社 取締役常務執行役員経営統括兼経営企画室長兼資産総括部長<br>2017年4月 当社 取締役常務執行役員営業統括兼営業本部長兼営業部長 (現任) | 0株             |
| (取締役候補者とした理由)<br>赤須修一郎氏は、2013年から当社の取締役として就任しております。経営全般に関する幅広い知識と経験を有し、現在では取締役常務執行役員として代表取締役を支え、業績拡大に貢献していることから、引き続き取締役候補者となりました。 |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                |

| 候補者番号                                                                                                                                                                       | ふりがな<br>(生年月日)                                        | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する<br>当社の株式数 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 3                                                                                                                                                                           | (再任)<br>みやした おさむ<br>宮下 修<br>(1954年12月18日生)            | 1978年4月 三菱商事(株) 入社<br>2004年7月 同社 生活産業グループ食糧本部砂糖ユニットマネージャー<br>2010年4月 同社 理事関西支社副支社長兼食料部長<br>2011年4月 同社 理事生活産業グループプリティール・ヘルスケア本部長<br>2012年6月 当社 取締役(現任)<br>2013年4月 三菱商事(株) 理事生活産業グループ食品流通・ヘルスケア本部長<br>2014年4月 同社 理事生活産業グループ生活商品本部長<br>2015年4月 エム・シー・ヘルスケア(株) 代表取締役社長(現任)                                                          | 0株             |
| <p>(取締役候補者とした理由)</p> <p>宮下修氏は、2012年から当社の取締役として就任しております。三菱商事(株)及び同グループ企業における豊富な経験に基づき、企業経営の観点から当社の経営に対する確かな助言・提言を行っていることから適任であると判断し、引き続き取締役候補者となりました。</p>                    |                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                |
| 4                                                                                                                                                                           | (再任)<br>(社外・独立)<br>かめい しんいち<br>亀井 信一<br>(1960年7月24日生) | 1986年4月 (株)三菱総合研究所 入社<br>2005年10月 同社 先端科学研究センター長<br>2007年10月 同社 科学・安全政策研究本部副本部長<br>2010年10月 同社 先進ビジネス推進本部副本部長<br>2011年10月 同社 人間・生活研究本部長<br>(株)日本ケアコミュニケーションズ 取締役<br>2012年7月 一般社団法人日本福祉用具供給協会 監事<br>2014年4月 公益社団法人日本工学アカデミー 理事(現任)<br>2015年6月 当社 取締役(現任)<br>2015年10月 (株)三菱総合研究所 政策・経済研究センター長<br>2016年12月 同社 研究理事政策・経済研究センター長(現任) | 0株             |
| <p>(社外取締役候補者とした理由)</p> <p>亀井信一氏は、2015年から当社の社外取締役として就任しております。(株)三菱総合研究所における豊富な知識と高い見識に基づき、独立社外取締役として中立かつ客観的な立場で、当社の経営に対する確かな助言・提言を行っていることから適任であると判断し、引き続き社外取締役候補者となりました。</p> |                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                |

| 候補者番号                                                                                                                                                    | 氏名<br>(生年月日)                | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 所有する<br>当社の株式数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 5                                                                                                                                                        | (再任)<br>山崎和<br>(1961年4月6日生) | 1984年4月 三菱商事(株) 入社<br>2007年4月 同社 イノベーション事業グループ<br>ヒューマンケア事業本部ライフケア<br>事業ユニットマネージャー<br>当社 取締役<br>2010年4月 エム・シー・ヘルスケア(株) 代表取締役<br>役社長<br>2011年4月 三菱商事(株) 生活産業グループリテ<br>イル・ヘルスケア本部副本部長<br>2012年4月 同社 生活産業グループCEOオフィ<br>ス経営計画担当<br>2013年8月 国薬控股北京天星普信生物医薬有限<br>公司 董事・副總經理<br>2016年4月 三菱商事(株) 執行役員生活産業グル<br>ープ生活流通本部長(現任)<br>2016年6月 当社 取締役(現任) | 0株             |
| <p>(取締役候補者とした理由)</p> <p>山崎和氏は、2016年から当社の取締役として就任しております。三菱商事(株)及び同グループ企業での豊富な経験と高い見識に基づき、取締役として当社の経営に対する確かな助言・提言を行っていること等から適任であると判断し、引き続き取締役候補者としました。</p> |                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                |

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 取締役候補者亀井信一氏は、社外取締役候補者であります。  
同氏は、現在、当社の社外取締役であります。在任期間は、本総会終結の時をもって2年となります。  
なお、亀井信一氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員として同取引所に届け出ております。
3. 取締役候補者赤須修一郎、宮下修及び山崎和の3氏の、当社親会社である三菱商事(株)及びその子会社(エム・シー・ヘルスケア(株))における過去5年間並びに現在の地位及び担当は、上記略歴、当社における地位及び担当(重要な兼職の状況)欄に記載のとおりであります。
4. 当社は、取締役候補者宮下修、亀井信一及び山崎和の3氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としており、宮下修、亀井信一及び山崎和の3氏の再任が承認された場合は、3氏との間で当該契約を継続する予定であります。

### 第3号議案 監査役2名選任の件

監査役半田常巳及び伊藤利之の両氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役2名の選任をお願いしたいと存じます。

監査役候補者の決定に当たりましては、当社の社是・経営方針に基づき、当社の企業価値向上に貢献できる能力と資質を持っていること、法令及び企業倫理・社会規範の遵守に徹する見識を有すること等を総合的に判断し、監査役会の同意を得た上で、取締役会において決定しております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                                             | ふりがな氏名<br>(生年月日)                        | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                | 所有する<br>当社の株式数 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1                                                                                                                                                                 | (再任)<br>(社外・独立)<br>伊藤利之<br>(1945年1月9日生) | 1970年5月 横浜市立大学医学部病院リハビリテーション科 勤務<br>1996年4月 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 常務理事総合リハビリテーションセンター長<br>2006年4月 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 顧問 (現任)<br>2008年6月 当社 監査役 (現任)                                                                   | 0株             |
| (社外監査役候補者とした理由)<br>伊藤利之氏は、2008年から社外監査役として就任しております。医学分野の専門家として、幅広い知識と高い見識を有しており、社外監査役として中立かつ客観的な立場で職務を適切に行っていること等から適任であると判断し、引き続き社外監査役候補者となりました。                   |                                         |                                                                                                                                                                                                                          |                |
| 2                                                                                                                                                                 | (新任)<br>岡田真<br>(1958年11月3日生)            | 1981年4月 パイオニア(株) 入社<br>2006年4月 当社 入社 業績管理部長<br>2007年2月 当社 経理部長<br>2013年4月 当社 執行役員管理本部副本部長兼経理部長<br>2013年6月 当社 執行役員管理本部副本部長兼総務部長兼人事部長兼情報セキュリティ推進室長<br>2015年4月 当社 執行役員管理本部副本部長兼人事部長<br>2015年6月 当社 取締役執行役員管理本部副本部長兼人事部長 (現任) | 1,000株         |
| (監査役候補者とした理由)<br>岡田真氏は、財務・経理・人事等の管理部門における長年の実務経験を有し、現在当社の取締役執行役員管理本部副本部長兼人事部長を務めております。当社及び当社グループの経営に関しても豊富な知識を有していることから、監査役として職務を適切に遂行していただけるものと判断し、監査役候補者となりました。 |                                         |                                                                                                                                                                                                                          |                |

- (注) 1. 各監査役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 監査役候補者伊藤利之氏は、社外監査役候補者であります。  
同氏は、現在、当社の社外監査役であります。在任期間は、本総会終結の時をもって9年となります。  
なお、伊藤利之氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員として同取引所に届け出ております。
3. 当社は、監査役候補者伊藤利之氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としており、伊藤利之氏の再任が承認された場合は、同氏との間で当該契約を継続する予定であります。また、監査役候補者岡田真氏が選任された場合は、同様の責任限定契約を締結する予定であります。

以 上

〈ご参考〉

【社是】

高齢社会への貢献

—安心できる商品の供給と真心のこもったサービスの提供—

【経営理念】

わたしたちは高齢社会のニーズに応え、  
最適商品を清潔感、安心感、信頼感の得られる  
“品質第一主義” に徹して提供します。



メ 毛

A series of 18 horizontal dashed lines for writing.

# 株主総会会場ご案内図

東京都千代田区内幸町一丁目5番1号  
 千代田区立 内幸町ホール  
 TEL 03-3500-5578



- 交通のご案内**
- J R 新橋駅 (日比谷口) より徒歩5分
  - 都営三田線 内幸町駅 A5番・みずほ銀行東京営業部方面出口より徒歩5分
  - 地下鉄
    - 東京メトロ銀座線 新橋駅 7番出口に向かい地下歩道
    - 都営浅草線 (E方面) 経由徒歩5分

※専用駐車場はありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。



見やすいユニバーサルデザイン  
 フォントを採用しています。